



令和2年5月22日(金)

デイリーニュース タイムリーさんぼう(水嶋編)

(タイムリーリカレントと一緒に学びましょう)

- ★ “球児たちにチャンス”球児のみなさん前へ 前へ絶望は栄養の源!
- ★ 初舞台で“米撃破”オリンピック野球。★ 五輪開催の条件 焦点
- ★ 手探りの分散登校:授業に制約 受験生へ募る不安
- ★ 都立校の 分散登校で ★ 保育士1.7万人追加必要
- ★ 日本人・なぜ死者少ない? ★ 首都圏25日にも“判断”
- ★ 『関西圏一体』重視 解除 ★ 関西企業、通常稼働へ前進
- ★ 世界の人出 なお6割 ★ 小売り・外食 全面営業へ関西3府県
- ★ “マスクなし” 搭乗お断り ★ why人に合わせる?
- ★ 『お店応援』1億円調達 クラウドファンディング ★ホテル稼働率最低!
- ★ 株式売却で資金確保 社員35%削減 ★ 大和通年採用を検討 大和
- ★ 二番底の深読み空回り 株式市場 ★ ネットでコンテンツ革命
- ★ 関西圏宣言解除:検事長辞職へ ★ 大都市の活動再開は油断なく
- ★ 病理を超えた光求めて 閉塞感写し生きる力に ★ 日経大機小機
- ★ 『ウエルビーイング』経営へ ★ 医療ルネサンス
- ★ きょうのことば『大阪モデル』 ★ 交遊抄 ★ 日経春秋 ★ 編集手帳
- ★ 気流

『タイムリーファン高校にて』別紙参照

高等学校内独自動画、進路講演会撮影!(収録)、2~3年対象、登校できない生徒向けへ、進路選択の確認、入試内容(面接など)、学費はどれくらい必要?入金日?就職求人今後は? などなど 進路決定に向けて、改めて“ギャチャンジ”熱血講演!タイムリーファン高校HPにもアップ。生徒へも配信(校内動画講演、さんぼう初企画)

★<オープンキャンパスに行こう!!>

栃木県・茨城県・群馬県の大学、専門学校全35校のOC情報を紹介!

タイムリーファン高等学校の先生方ぜひ生徒様へ。

★<iASC 個別相談会開催!...受付中。完全予約制。>

いばらき動物専門学校 ♪あなたをサポートします!(別紙参照)

<<こまったときの・さんぼう水嶋!24時間いつでもなんでもご相談下さい>>

㈱ さんぼう 教育事業本部 本部長水嶋晃利

TEL:03-3378-7112携帯:080-2202-1391t-mizushima@sanpou-s.net



保育士17万人追加必要

厚労省試算 9月入学 来年導入なら

学校の休校長期化を受けて政府が検討する「9月入学・始業」を来年導入した場合、追加で必要となる保育士の数は約1・7万人、予算額は約1400億円に上ることが厚生労働省の試算でわかった。

9月入学では就学開始時期が現在より5か月遅れとなり、保育所で受け入れる場合、園児が一時的に増える。

厚労省などによると、保育所の5歳児は約50万人。園児30人に対し、保育士1人と基準で定めているため、追加の保育士約1・7万人が必要になる。

また、園児1人当たり月5・5万円の運営費を公費負担しているため、追加費用も発生する。待機児童もいる中、都市部では必要な施設のスペースを確保できない可能性もある。同省は保育士やスペースを一度に確保するのは困難な面があるとしている。一方、入学前まで子供を「ゼロ年生」として小学校で生活させる案も浮上しており、文部科学省が検討を始めている。

慶応大など8大学・研究機関は21日、新型コロナウイルスに感染して重症化しやすいかなど、遺伝的要因を調べる共同研究班「コロナ制圧タスクフォース」を発足させた。日本人が欧米に比べ人口当たりの死亡者数が少ない点に注目し、日本人の重症化に関係する遺伝子を探すといる。

日本人 なぜ死者少ない？

慶応大など遺伝要因調査へ

や民族による遺伝的な要素が背景にあるとの見方もできている。

研究班は、国内約40病院から新型コロナウイルスの感染者600人の血液を収集し、全遺伝情報(ゲノム)を解析する。軽症・無症状者と重症・死亡者の間に遺伝的な違いがあるかどうかを調べ、9月ごろに研究成果をまとめたたいとしている。

海外の研究機関でも進む遺伝的要素の国際共同研究班にも参加して、データを比較する。

関西3府県 緊急事態解除

首都圏 25日にも判断

政府は21日の新型コロナウイルス感染症対策本部で大阪、京都、兵庫の関西3府県への緊急事態宣言を解除すると決めた。今回解除を見送った東京都など首都圏の4都県と北海道は25日にも専門家の評価を踏まえ解除の可否を判断する。(関連記事3面、社会面に)

北海道も首相「感染者、確実に減少」

4月7日の緊急事態宣言発令後、一部解除は39県を対象とした5月14日に続き2回目。重点的な対策が必要だとして「特定警戒」に指定する北海道、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県が残った。安倍晋三首相は21日夜、首相官邸で記者団に残る5都府県について「新規の感染者は確実に減少し、医療の逼迫状況も改善傾向にある」と指摘した。「25日にも専門家に状況を評価していた



(注)21日午後8時現在の日本経済新聞社の感染者数集計と2019年10月1日時点の都道府県人口を基に作成

大阪、あす休業要請縮小

大阪府は政府の緊急事態宣言解除を受け、休業要請の要請を縮小する。遊園地やボウリング場などへの休業要請を解除するほか、飲食店の

午後10時以降の営業を認め、23日午前0時から適用する。京都府、兵庫県も休業要請を緩和する。大阪府は独自に定めた感染状況などの基準(大

阪モデル、3面きょうのことは)を満たしたとして、百貨店などの商業施設への休業要請を16日に解除していた。今回、解

府内の学校は6月15日から全面再開するよう市町村に求める。これに先立ち、6月1日から1クラスあたり児童・生徒を20人程度に絞って登校さ

せ、短縮授業を実施する。大阪府は小6と中3は5月25日から先行して分散登校を始める方針。ライブハウスなど、過去にクラスター(感染者集団)が発生した施設は、感染防止策をさらに検討する必要があるとして休業要請を維持する。

だき、今の状況が継続されれば解除も可能になるのではないかと語った。今後の対応では抗原検査による検査態勢の拡充

21日の都の感染者数は11人。同日午後8時の段階で直近1週間の10万人当たりの感染者数は0.42人と目安を下回った。週明けもこの水準を維持できれば解除する可能性が出てくる。

西村康稔経済財政・再生相は21日の衆院議院運営委員会、全国で解除する際は経済活動拡大の

「第2波は必ず起る。」と判断する」と強調した。小波に抑えることが大事だ」とも訴えた。

や医療の提供体制の強化などを挙げ「次なる流行の波に対する備えについても、知事や自治体と連携しながら万全を期していきたい」と述べた。大阪など関西3府県の解除を決めたのは直近1週間の10万人当たりの感染者数が0.5人程度以下

らの人々の流入が増え、感染が再び広がりがちなこととみている。解除を見送った。解除にはリスクもある。街中で人出が増え、感染が再び広がりがちなこととみている。韓国では外出規制を緩和したのち、集団感染が発生した。中国の湖北省武漢市でも都市封鎖解除後に再び感染者がみつ

感染拡大を防ぐためには「密閉・密集・密接」の「3密」を避ける「新しい生活様式」への対応が不可欠となる。

西村経財相は再指定の基準について「新規感染者数が2倍に増えるスピードや感染経路不明者の割合を、これまでに以上に厳しい目で見て総合的に判断する」と強調した。

時点で大阪府は0.17、京都府と兵庫県はそれぞれ0.04だった。当面の焦点は経済活動の本格再開に不可欠な首都圏の解除に移る。

東京都は20日時点で0.56人と解除目安を上回っていた。千葉、埼玉両県はそれぞれ0.21、0.31と下回っていたが、解除すれば東京都などからの人の流入が増え、感染が再び広がりがちなこととみている。解除を見送った。

解除にはリスクもある。街中で人出が増え、感染が再び広がりがちなこととみている。韓国では外出規制を緩和したのち、集団感染が発生した。中国の湖北省武漢市でも都市封鎖解除後に再び感染者がみつ

基本方針を示すと明らかにした。イベント開催や外出自粛に関する政府の考えを示す。これまでに解除した地域で感染状況が悪化すれば緊急事態宣言の対象に再指定する。

マスクなし 搭乗お断り

1/25 読者

全日本空輸は21日、6月の国内線について、当初計画の約70%を減便すると発表した。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の解除が進むなか、国内路線では新規予約が伸びつつあり、減便率は5月の約

85%から縮小した。

感染拡大前の計画では1日15往復運航する予定だった羽田―伊丹は6月に6〜8往復へと減りますが、5月の2往復からは増やす。そのほか、羽田―熊本など5月中は運休していた路線の

ANA 6月国内線 7割減便

一部も、6月は運航させる。

スカイマークも21日、6月1〜11日の国内線の運航を約81%減らし、5月の約86%から減便率を縮小することを決めた。

また、全日空は21日、乗客向けのお願いをホームページで公表し、空港や機内で必ずマスクを着用するよう求めた。着用しない乗客に対しては、搭乗を拒否する場合があるとしている。

コロナに思う

海外からみると、新型コロナウィルスへの日本政府の対応は強制力がなく、ルールがあいまいとの批判があります。私も「Why(なぜ)?」と思ったことがあります。東京都内の公園には入利用はご遠慮くださいVと貼り紙があるのに、その近くにハランニングする際はマスクを着けてVともある。「利用していいの? だめなの?」。外出自粛の意味に戸惑いました。他人が外出自粛を守っているから。会社にそう指示されたから。そんな理由で、多くの日本人は行動を改めます。「周りに合わせる」意識は、対外的な危機をみんなで乗り越えるのに存分に発揮されませんでした。ただ、こうした価値観は、コロナ後の社会を大胆に変えるチャンスに、負の作用をもたらすかもしれません。私は日本で3人の子供を育てています。均質的な日本の教育制度では、学校の教室に集まり、全員がカリキュラム

米国出身お笑い芸人

厚切りジェイソンさん 34

Why 人に合わせる?

あつぎりじゅいそん 日本文化への疑問を提示し、「Why Japanese people?」と絶叫する芸風が人気。IT企業の役員も務める。



をこなせるよう面倒をみます。ただ、コロナ禍で注目されたオンラインをうまく活用すれば、子供は将来につながるスキルを自分で学べる。個人が時間をもっと自由に使い、新しい発見を通して好きなことに挑戦しやすくなります。

働き方もそう。ウェブ会議を活用して仕事の効率が上がりました。でも、米国で成功しているIT企業は既に、快適なリモート環境をアピールし、幅広い才能を持つ人材を集めて生かしています。

周囲の環境や既存の制約にもたれかかることなく、自分の可能性を広げる意識を持つにはどうしたらいいか。コロナ危機を、じっくり考えられる機会ととらえたいです。

(聞き手・星野達哉)

コロナと創作 詩人 和合亮一氏

文 化



わごう・りょういち 1968年福島市生まれ。東日本大震災の直後、ツイッターに連続投稿した「時の隙」が反響を呼び、詩集「QQQ」で昨年、萩原朔太郎賞を受賞。

長引くウィルスとの闘いを、特別な思いで受けとめている。「あれから9年後に、これほどの困難な事態を迎えることになるとは、まさか思ってもみませんでした」。東日本大震災の発生から間もない2011年3月16日、福島市内のアパートの2階にある自室で、和合はパソコン向き合っていた。すでに東京電力福島第一原子力発電所では水素爆発が起き、煙がもつもつと上がっていた。妻子を真外に避難させた後、一人残った部屋には余震が数回くぐもってきた。その揺れ動く部屋の中で、さすがにようやくしてツイッターに投稿を始めたのが、詩集「時の隙」として3カ月後に出版される言葉の数々だった。

病理を超えた光求めて

状況で、1カ月近く家に閉じ込められた。外出して帰ったら、服は家の外で脱がなければならなかった。「見えないウィルスの恐ろしさは、あの放射線の恐怖と重なるところがある」と感じる。2月以降、予定していた活動が、次々中止や延期となった。前橋文学館での萩原朔太郎賞受賞記念の備展は、開催1カ月前もたらず中断を余儀なくされた。詩の朗読会、コンサートへの出演、震災9年を記念した数々の講演など、取りやめになっただけでなく、ほろろとすると、パソコンに向かった。3月末、非常事態での「時の隙」の連続ツイートを、9年ぶりに再開した。

閉塞感写し生きる力に

「手を洗っしかなない」という点では、今回も同じような状況に立たされている」と和合。前回は見えない放射線の恐怖があった。食料や水を確保するのも容易ではない。状況で、1カ月近く家に閉じ込められた。外出して帰ったら、服は家の外で脱がなければならなかった。「見えないウィルスの恐ろしさは、あの放射線の恐怖と重なるところがある」と感じる。2月以降、予定していた活動が、次々中止や延期となった。前橋文学館での萩原朔太郎賞受賞記念の備展は、開催1カ月前もたらず中断を余儀なくされた。詩の朗読会、コンサートへの出演、震災9年を記念した数々の講演など、取りやめになっただけでなく、ほろろとすると、パソコンに向かった。3月末、非常事態での「時の隙」の連続ツイートを、9年ぶりに再開した。

いる点では、全く同じだが、あの時は、私が福島から発する言葉を、普通の日常を送っている方々に受け止めてもらっていた。ところが、今回は、誰もが当事者になっている。日本だけでなく世界中の人々が、ウィルスの恐怖と隣り合わせに生きていく「だからこそ、詩や短歌、俳句、写真、音楽などの投稿を呼びかけ、それぞれの作品をツイッター上に集めている。いま思いを新たにしているのが、自然と人間との関わりだ。「9年前、放射線量が高い時には、音がめくり、花が美しく咲き、木の葉が風に揺れても、山や夕焼けを見ても、書いてこなかった。すべてにフィルターがかけてられているみたいで、色彩さえ失って見えることがあった」。今回も、事態は似ている。家に閉じこもり、ウィルスの脅威におびえる。「今、ウィルスによって私たちは不気味な自然の脅威にさらされているが、それを表現する言葉をまだ持っていない」と和合。一方で、萩原朔太郎に思いをよせながら、時の可能性を探る。「朔太郎の詩は、鋭い病理感覚、疾患の意識を詩で表現したが、その病理性を見つめるまなざしに、一点の健康さがある。読む人に生きる力を与えた」。病理を描きながら、力を授ける文字を、朔太郎は「ドストエフスキーの小説から学んだ」という。「同じようにウィルスによって混乱しているこの状況を写し取ることで、生きる力を与えることはできないか」。そう考える詩人は、剣道の「活人剣」という言葉を口にした。「活人は人を殺す道具だが、使い方によっては、相手に活力と元気を与えることができる」と語る。「新型コロナウィルス」という言葉から、底れない閉塞感を感じとっている人間の心理に、言葉を与えながら、病理の向こうに差す光を、懸命に探し求めている。(編集委員 宮川匡司)